

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・自分の身に置き換えて自分が住みたいと思える環境と自分が受けたいと思うサービスを提供できるよう独自の理念を作りあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎日の申し送り時復唱する事で理念を共有し、自分が受けたいと思うサービス、自分が住みたいと思える環境作りに日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・定期的に運営推進会議を行い地域の活動などを把握し自治会や老人会などに働きかけをしている。 ・自治会に入会し交流する機会を作り地域の方々に理解して頂けるように努めている。 ・家族へは広報誌や行事等で集まった際、理解して頂けるように取り組んでいる。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩時気軽に声を掛け合い畑の野菜や切り花を頂いたりしている。 ・近所の方が出来た野菜や花を届けてくれたりとの交流がある。 ・近所の子供達が遊びに立ち寄ってくれる時があるので、回数が増えるように努めている。	○  ・散歩、外出の交流を続けたい。また現在、隣の障害者施設でつくられた野菜も食材に取り入れているがより食材の地産地消により積極的に取組みたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に入会している ・地域の人々と交流する事に努め、自治会や老人会の活動に参加できるよう努めている。	○  ・自治会長を通し老人会や地域ボランティアの情報を把握し交流できるよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・隣接する障害者施設のお祭りや収穫祭に参加して、相談コーナーを設けている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・評価前後共に課題点を確認し、具体的改善ができるように取り組んでいる ・意義を理解し利用者の権利を文章化し明確にする事で不安を取り除き権利を守るベース作りをしている。	○	・全職員に自己評価をやってもらい、それを集計して評価の共有化と新たな気づきに基づいて改善したい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・議事録を回覧したり、全体会議で報告し話し合っている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市役所に行った時に、介護保険課、高齢福祉課を訪ね情報を交換している。 ・運営者が市社会福祉協議会評議委員をしているのでそういった機会にも連絡を取り合っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修会に参加、全体会議や朝のミーティングにて報告し話し合いを持ち活用できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修への参加、報告書にて話し合い、新聞記事などを通して虐待について話し合いを持ち、職員一人一人が虐待を見逃さないような環境作りに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約、重要事項説明書等の内容を説明し不安や疑問点があれば理解、納得をして頂けるよう十分な説明を行なっている ・以前利用していた介護支援事業所の馴染みのケアマネに同席して頂き理解、納得の援助を頂く場合もある。	○  ・以前利用していた介護支援事業所の馴染みのケアマネに同席して頂き理解、納得の援助を頂く事を続けたい
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議で意見、不満、苦情を第三者に伝えられる様促している。 ・利用者の家族や友人等に気軽に来て頂き意見、不満、苦情を表せる機会を設け運営に反映させている。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・お便りを発行、行事報告や予定、写真で暮らしぶりをお知らせすると共に金銭管理明細書、領収書も同時に郵送している。 ・個々に健康状態の変化や暮らしぶりを電話や手紙、ファックスなどで報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議で家族が、意見、不満、苦情を第三者に伝えられる様促している。 ・家族参加の行事等でボランティアなど外部の人と交流して頂き話せる機会を設けている。	○  ・ホーム設置のご意見箱の利用をもっと促したい
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・朝のミーティング、毎月の全体会議にて職員の意見や提案を聞き反映させている。 ・定期的に個人面談を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・日中職員を増やし緊急時や家庭の要望に対応できるよう勤務の調整をしている。 ・個々のご利用者の希望（外出等）をかなえられるように業務体系、人員体制をとれるように努力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよう離職を減らす為に、親睦会による親睦をはかっている。また、離職の時は利用者の精神的ショックを防ぐ為、理解力のある利用者には突然にならないよう前から離職の話しておく。</li> <li>・離職した職員も気軽に遊びに来ることで繋がりが途絶えない</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・離職した職員がいつでも戻れる体制をとっている。</li> </ul>
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修を受けられるように勤務体制をとっている</li> <li>・新人職員にはOJTとして指導できる職員をつけている。</li> </ul>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の他のグループホーム、介護支援事業所を定期的に訪ねて、情報交換を行っている</li> <li>・地域包括支援センターでのグループホーム懇親会に参加している</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の他グループホーム、介護支援事業所を定期的に訪ねて、情報交換を続けたい</li> </ul>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に勤務希望のアンケートを取り、できるだけ希望に添った勤務体制を作っている</li> <li>・親睦会から映画や入浴施設の無料券の配布</li> <li>・親睦会で交流、ストレス発散をしている。</li> <li>・ティーサーバーを導入してストレスを軽減する工夫をしている。</li> </ul>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各職員の経歴、特徴等を把握してそれを活かせるような係分担をしている。</li> <li>・職員個々の努力や実績を全体会議での発表を通じ各自の向上心を持てるよう努めている。</li> </ul>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からだけ話を聴くのではなく、ご利用本人にもきちんと面会の上希望を伝えて頂けるように努めている（来訪困難な場合は自宅等へ訪問する） ・本人の訴えがある時はその都度よく聴く機会を作り受け止める努力をしている。	○	・入所の問合せがあった時は必ず見学して頂き、ご本人が少しでも安心できる様な配慮を心がけていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・以前利用していたケアマネのサポートを受け間に入って頂いたり、情報提供に基づきより信頼関係を築けるよう努めている。 ・来訪が困難なご家族等へはこちらから出向いて相談にのる ・家族からの相談や不安なことにはその都度聴き納得が得られるよう正確な情報を提供できるよう努力している		
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族の要望を聴くだけでなく、こちらでも本人の状態を見極め、判断し、場合によっては他事業所、病院等とも連携をとりその時必要としている支援を見極め、適切な支援をするよう努力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・体験入所などをして頂き、場の雰囲気を体感して頂き本人が少しでも安心して、本人、家族も納得したうえでサービスを利用して頂けるよう努めている。	○	・本人の生活歴、趣味、嗜好などに合わせたサービスをこれからも続けていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・高齢者の経験や特技などを活かせる場や時間を作り、共同作業（手作業や家事、園芸など）を試みている。	○	・回想法や園芸療法と関連させながら、特技や経験を職員に教えて頂き、支えあう関係を築いてゆきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・夏祭り、敬老会、クリスマス会等の行事に出席を促し、職員、家族、ご利用者で喜怒哀楽を共有できるように努めている。またそういった機会にご利用者の現状の把握もご家族が自然にできるように努めている。	○	・家族と担当職員の話し合いや、ケアマネージャーとの相談の回数を増やしてゆきたい。 ・家族に行事等に参加していただくだけでなく、行事等の手伝いも一緒にしていただくことにより、一緒に本人を支えていく関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・入所時に家庭での状況、生活歴、これまでの生活習慣等の聞き取りを本人、家族から行い本人と家族の関係を理解し、より良い関係が築けるよう努力している。 ・自宅での祝い事、食事会などにも参加できるように支援している。	○	・ご本人とご家族がいつでも一緒に食事などをできるように取組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族等と協力し馴染みの人と会ったり馴染みの場所に出掛けたり出来るよう支援している。 ・近所だった人の面会も気軽にさせていただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・性格・趣味・嗜好を考慮して、食事のときのテーブル配置をしている。 ・ドライブ、外出、個別外食などの時、ご利用者同士のよい係わり合い、支え合いの関係を築く機会をつくっている。	○	・ご利用者同士の協力関係づくりなどに、職員が適切な配慮をしてゆきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・サービス利用終了後も気軽に相談にのっている。 また相談しやすい環境づくりに努めている。		・年賀状やお便りなどで継続的な関わりを続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○ ・自己主張のはっきりした方が多いので、その希望に沿うように努力しています。・また表現の難しい方の場合には出来るだけこちらから汲み取るように努力している。	○ ・担当者との話し合いや、少人数で外出などの機会を増やすことを通して、希望や意向を汲み取る機会をふやして。行きたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○ ・面会にいらっしゃるご家族が多いのでその都度現状報告しながらそれまでの暮らし方などをさりげなく聞き把握に努めている。 ・生活歴や馴染みの暮らし方の把握に関してご家族からは入所時のみの聞き取りとなっているご利用者もいるが、その場合は毎日の生活の中でご本人から聞いて把握に努めている。	○ ・面会にいらっしゃるご家族が多いのでその都度現状報告しながらそれまでの暮らし方などをさりげなく聞き把握につとめている。 ・入所以来ほとんど来訪されないご家族もいらっしゃいますが、ご家族の状況等もあるので電話やファックス、手紙などで連絡を取りながら把握していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○ ・各日誌、報告を別々に把握するのではなく、結びつけて総合的に把握するように努めている。 ・日誌、報告からだけでなく管理者、ケアマネも時には現場に入って現状の総合的な把握などに留意している。	○ ・もっと写真なども利用してわかりやすく総合的な把握が出来るようにしたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○ ・毎朝の申し送り時などに、職員間で本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合っている。また本人と職員でも随時話し合っているが、本人、家族、必要な関係者が全て一同に話し合う機会は一部のご利用者に対してしかもてていない。	○ ・本人、家族、必要な関係者が全て一同に話し合う機会を全てのご利用者に対してもてるようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○ ・見直しを毎朝の申し送り時などに、話し合いながら行っている。	○ ・さらに適時適切に現状に応じた見直しと作成を行ってゆきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録や各ユニットで連絡ノートをつくり記入している、しかし、気づきや、状況の記録が他の職員が読んだだけでは分からず記入職員に問い合わせることがある。	○	・気づきや、状況の記入をより詳しくして他の職員が一読して分かるようにしたい。 ・職員全体で記録の見直しをしたり、記入の仕方を工夫し、実践の介護計画に活かしてゆきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・隣接する知的障害者更生施設の行事に参加する事により行事の多様化を図っている。 ・隣接する地域交流ホームを当ホームの行事等に利用している。	○	・当事業所だけでは限界があるので他の事業者とも連絡を取り、本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、多様で柔軟な支援をしたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・大学、専門学校等の実習を受入れている ・地元小学校の総合学習を受け入れている ・消防、警察から協力を得ることが出来るよう情報提供、訓練の指導をお願いしている ・隣接している障害者施設で散歩したり作業を見学、参加させて頂いたりして交流を図っている	○	・地元小学校の総合学習の受入のみならず、保育所などとも連携したい。 ・交番のお巡りさんの巡回を定期的にお願ひしてゆきたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・こちらから介護支援事業所を訪問したり、気軽に来訪して頂き情報交換している。その際、必要であれば他のサービスも利用できるように支援している。	○	・地元介護支援事業所との交流、互助を続けたい。 ・地域包括支援センターでのグループホーム交流会を定期的に続けていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議に出席して意見を頂いている。	○	・20年12月よりひたちなか市西部地区ではグループホームの交流会を開催しており、そこで困難事例の検討なども予定されているので、協働していきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時を除き、すべての受診に関して本人、家族の同意を得るようにしている</li> <li>・内科に関してはいばらき診療所による月に4回の往診のみならず変化があった際は24時間365日医師がかけつけていただけるようになっている</li> <li>・また歯科の往診もお願いし、口腔環境向上などにも積極的に取り組んでいる</li> <li>・必要に応じ精神科の受診等も家族と話し合い出来るだけ、同行して頂いている。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時を除き、すべての受診に関して本人、家族の同意を得るようにしている</li> </ul>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳外科、精神科、心療内科の受診を適切に行い、認知症に関する相談や診断、治療を受けられるよう支援している</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳外科、精神科、心療内科の受診を適切に行い、認知症に関する相談や診断、治療を受けられるよう支援している</li> <li>・医師の相談のみならず、カウンセラー等も利用できるようにしたい</li> </ul>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正看護師、准看護師各一名が常勤で勤務して、ご利用者の健康管理や医療活用の支援をしている。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する障害者施設の看護師とも感染症対策などで協働していきたい。</li> <li>・以前勤めていた看護師が近所に住んでおり、電話による相談や来所による支援を続けたい</li> </ul>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族と担当医師との面談時にはグループホームの看護師も立会い連携している。</li> <li>・定期的（概ね週に2回程度）に病院を訪ね、本人と話したり、身体をマッサージしたりして、本人の緊張をほぐしたり、安心できるようにしている</li> <li>・入院中、病院関係者との情報交換や相談に努めできるだけ早期に退院できるよう支援している。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院のソーシャルワーカーなどと日頃から交流したい</li> </ul>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所契約時に重度化した場合や終末期のあり方について、施設の方針を説明しご家族の判断を仰いでいる</li> <li>・緊急蘇生法などの職員の研修なども行っている</li> <li>・疑問があればホームの看護師にいつでも質問できてアドバイスが得られるようにしている。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルツハイマー病の方は特に重度化に向けて家族やかかりつけ医と相談していく必要がある</li> </ul>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の「できること・できないこと」を見極め特に重度のご利用者や、高齢のご利用者に関してはかかりつけ医とも相談し共に支援に取り組んでいる</li> <li>・ご利用者の将来に対する不安等に関する家族の心理的ケアもご家族との日頃の付き合いの中でさりげなく行い、今後の変化に十分準備できるよう支援している</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後かかりつけ医やホームの看護師と、更に検討し支援チームを作っていきたい。</li> </ul>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・体験入所をしてもらっている ・環境に慣れるまで無理強いをしないで本人の生活習慣を自然に呼び戻す配慮をしている	○	・体験入所をしていただく ・環境変化によるダメージは少なからず起こるので、特に初期は家族等の情報交流を密にし、ダメージを防ぐことに努めたい
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者の希望と意思により居室の鍵をお渡ししている ・記録は鍵のかかる書庫に保管している	○	・記録は鍵のかかる書庫に保管する
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・一人ひとりの思いや希望はできるだけ傾聴し、時には声だけでなく、カードやメモを活用して自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	・一人ひとりの思いや希望はできるだけ傾聴し、時には声だけでなく、カードやメモを活用して自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしたい
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、可能な限り希望にそって支援することになっている。	○	・職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、可能な限り希望にそって支援することに取組んでいきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・本人の望む理容・美容室にお連れしている ・身だしなみや化粧も職員の都合でジャージ等を着用するのではなく、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。	○	・本人の望む理容・美容室にお連れしたい ・身だしなみや化粧も職員の都合でジャージ等を着用するのではなく、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者のADLと時間の制限等もあり一緒に食事作りを行う事は少ないが、野菜に下ごしらえ、食卓の準備、食器の片付け等は手伝っていただいている、また食事を楽しめるよう職員が間に入って会話をしながら一緒に食べている</li> <li>・誕生会等のケーキの飾りつけなどはほとんどの利用者ができるので一緒に行っている</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できることはできるだけ手伝っていただく</li> <li>・当ホームは男性利用者が多い為できてもやりたくないという利用者には無理にお願いしない</li> </ul>
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の希望があれば飲酒、喫煙も可能であり、その支援もしており、飲酒、喫煙された方も以前はいらっしやいましたが現在はおりませんが禁止はしておりません</li> <li>・おやつも本人の希望により職員が買ってきたり、一緒にスーパー等へ買い物に行くこともある</li> <li>・また食事の時、おやつの時、起床時、就寝前等の飲み物は本人の希望に合わせて飲めるよう支援している</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数での外食の機会をふやしたい、いつも同じ利用者にならないようにしたい</li> <li>・本人の希望があれば飲酒、喫煙も可能であり、その支援もしたい、一人ひとりのそれまでの生活を大切に、一律に禁止したりすることは今後も考えていない</li> <li>・おやつも本人の希望により職員が買ってきたり、一緒にスーパー等へ買い物に行くことも続けたい</li> <li>・また食事の時、おやつの時、起床時、就寝前等の飲み物は本人の希望に合わせて飲めるよう支援していきたい</li> </ul>
56 ○気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけトイレ介助を行い、ウォッシュレットなどの使用で清潔、快適習慣をつけるようにし、また、パッドは吸水量と肌触りなどを考慮し、不快感、肌のかぶれ、じょく創を防ぐなど職員全体で勉強会をしている</li> <li>・また、専門の方による指導も受けている</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も自立に向けてトイレ排泄に取り組んで行きたい</li> <li>・リハビリパンツ、おむつ、尿取りパッド等の利用の場合も本人のプライドを傷つけず不快感も少なくし、かつじょく創防止に努めたい</li> </ul>
57 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の入浴できるタイミングや希望を出来る限り尊重し、最低でも二日に一度は入浴するよう支援している、また浴槽のブローバス設備の利用や入浴剤の利用、また足浴も楽しんでいる</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後芳香浴や、アロマテラピー、フット、ハンドマッサージなどにも取り組んでいきたい</li> </ul>
58 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の状態や希望に応じて、居室で休息していただいたり、寝具の清潔を保っている</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜逆転にならずに本人の希望や習慣、身体状況に応じて休息したり眠れるように支援したい</li> </ul>
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの生活歴や力を活かして役割をお願いしている</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、ご利用者の張り合いのもてることに気付き、発見する努力をして明日からの支援に役立てるようにしたい</li> <li>・さらに家庭的な気持ちで生活できるよう、喜びのある場にするようケアプランを作成していきたい</li> </ul>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人がお金を持つ事の大切さを理解し買い物や病院、美容室などへ行く時など本人の希望や力に応じて自分の財布から使えるように支援している	○	・本人がお金を持つ事の大切さを理解し買い物や病院、美容室などへ行く時など本人の希望や力に応じて自分の財布から使えるように支援していきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・一人ひとりのその日の希望にそって散歩やドライブをしている	○	・毎日全てのご利用者のその日の希望にそって外出することは難しいが、グループごとに多数決等で行く場所を決めることが多いが、時には少数意見ももっと採用する、もしくは、マンツーマンで外出するということも増やしたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族と協力し、個別あるいは他の利用者様と行事などに取り入れていて、でかけられる機会を作っている	○	・ご家族との外出は随時可能な為、積極的に続けたい ・職員の対応で個別で外出するという事も増やしたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	・できるだけ電話機を身近に置いて、希望に応じて本人自らが電話をかけたり、手紙のやり取りができるようにしている ・希望により本人専用の携帯電話で本人自ら電話をしたり、受けたりするのを支援している	○	・簡単に手紙のやり取りができるようにレターセットなどを身近に用意することも考えたい ・希望により本人専用の携帯電話で本人自ら電話をかけたり、受けたりすることを支援し続けたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・開放的な場所作りに努めており、共有のリビングで面会をすることも可能であるが、プライバシーを考慮して個別に面会したい時は居室で個別で過ごしていただいております、また、面会者が一緒に食事をとることもできます ・玄関前とウッドデッキにもイスセットにおいて気軽にお茶を飲んだり出来るように工夫している	○	・今後も、玄関前やテラス、ベランダでもお茶を飲んだり、気軽に居心地よく過ごせる工夫をしてゆきたい ・庭の植栽と散歩道の整備計画があり、訪問者にご利用者が外を散歩したりしながら過ごせるようにより工夫したい
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修や新聞などを通して理解を深め、全体会議や、申し送り時等にも随時職員と話し合い認識を持ってケアに取り組んでいる		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・徘徊や自分で判断では危険であると認識できない場合を除き、玄関や居室入り口、掃き出窓の出入りは自由であり自分で鍵を希望する方以外は施錠しない	○ ・今後も安全に配慮しつつ鍵を掛けないことを原則にしつつ取り組んでいきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中は人員確認表により所在安全確認し、夜間は巡視やナースコールにて対応している。	○ ・職員の相互連携を図りつつさらに安全確保に取り組んでいきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・爪きり、はさみ等の所持も一律に禁止するのではなく、一人ひとりの状況に応じて対応している	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・インシデント報告書、マニュアルの作成などによる知識の共有などにより事故防止に取り組んでいる ・リスクマネジメント担当者を中心にヒヤリハット、インシデント報告書の内容について話し合い、事故防止に取り組んでいる	○ ・定期的に防災訓練、ヒヤリハット、インシデント報告書についてのミーティングを続け、事故防止に取り組んでいきたい
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・もしもの行方不明の時に備えて、ご利用者の捜索用の写真や特徴を記録したものを用意している ・半分以上の職員が消防署の救急蘇生法の研修を受けており、マニュアルを作成している	○ ・定期的な訓練、研修を行って行きたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・火災、地震に備え、居室の窓は全て掃き出しになっている ・火災訓練を定期的におこない、また隣接する知的障害者更生施設とも共同で訓練を行っている	○ ・地震、水害時など地域の方に協力を得られるよう、自治会などと協力しより地域連帯をはかっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	○	・家族会などを活用し、担当職員、ケアマネジャー、管理者が説明する機会をもっと多くする
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日バイタルチェックを行い体調の変化や異変の発見に努め、申し送りや業務日誌、個人記録などに記入している。早めに提携している医師に連絡し対応を伺ったり往診に来て貰っている	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は薬の目的や副作用を相互連携して教えあい、正確な情報の把握に努め、薬剤師や看護師への確認も行なっている	○	・薬の表を作り、主な使用薬の目的と副作用の一覧表を作成していききたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	・水分補給や毎日のリハビリ体操等の働きかけに努めている、また乳酸飲料などもほぼ毎日摂取している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・歯科医師の口腔ケアの指導をしてもらっている ・毎食後の口腔ケア（歯磨き、いれば消毒、うがい）を行い、チェック表に記録している	○	・往診の歯科医師と連携協力し対応していききたい ・利用者の希望に添った歯科への受診を続けていきたい
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食べる量や、一日の水分量をチェックし把握し、を工夫して支援している ・咀嚼、嚥下状況にあわせた食事形態をとっている ・毎月体重測定を行い、栄養水分の摂取の支援をおこなっている	○	・今後も続けて行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・それぞれのマニュアルを作成し対応している、訪問者も含めて、手洗い、消毒、うがいなど徹底している	○	・今後も情報を的確に把握し、対策をとっていききたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・塩素系消毒剤により調理用具などの衛生管理を行っている ・食材は毎日、新鮮なものを届けてもらっている ・衛生管理専門業者に依頼して台所及び全館の拭き取りによる細菌検査を受け、更にその結果を基に勉強会の講師として指導していただいた	○	・継続していきたい
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関先に椅子や花を置き、くつろいで話しが出来る空間を作っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感などに配慮してよしずやカーテン、ブラインドなどを取り入れ不快な音や光がないように配慮している ・夏には朝顔やヘチマなどで緑のカーテンを作り日除けをつくっている	○	・エコロジーにも配慮して植物などももっと活用して行きたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居室の窓をでたところに作り付けの椅子が設置してある ・和室の個別利用 ・ウッドデッキのテラスにテーブルや自然素材のイスを置き日光浴や干し物をしたり植物をおいたりして自分の時間を過ごせるように配慮している	○	・今後、植物の棚を作ったりして日陰を作り、外気浴、園芸、お茶などの機会をさらにふやしていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・使い慣れたタンスや仏壇などの家具や椅子な どを持ち込めるようにし、できるだけ自分の暮らし の継続性を感じさせ、居心地よく過ごせるよう配 慮している	○	・今後も無理のない範囲で、その方向を継続して いきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・暖房にエアコンを利用すると湿度が下がりすぎ ることになるので床暖房を利用して、ホコリの飛 散、湿度の低下をふせいでる ・各居室、館内各所に室内温を変化させない換気 扇がついているのでその活用をしている ・特に冬場は室温が高くなりすぎることがあるの で、外気温と大きな差がないよう細めに調整して いる ・加湿機能付空気清浄機により匂いや湿度の調整 をしている	○	・運動や活動を増やし又衣類の調整、レッグウ ォーマー等の活用などを通して体温調整を図った り、アロマオイルなどの活用などにより自然で健 康的な空調を図る
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・床材にコルクを用い、手すりを付けて滑りにく く足に負担が無く転んでもショックの少ないよ うに安全に配慮している	○	・施設内の設備を活用して、歩行訓練などにも取 組んでいきたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・居室の前に表札をつけて混乱しないようにして いる ・東ユニットと西ユニットの壁の色を変えて混乱 しないようにしている ・ご利用者によってはタンスの引き出しの外側に内 容物を記入したりして間違えないように工夫して いる		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・各居室から自由にでられるのベランダを設置し ており活動できるようにしている ・庭を広く取り、活動可能にしている	○	・さらにこの空間を活かし園芸や憩いの場に活用 したい

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員の人員配置は基準の3対1を大きく上回る1.5対1に近い配置をしている、その理由としては

- 1、個別対応の充実の為と、実際（認知症対応型の誇りと責任をもって他のホームでは困難なケースも受入れているので）個別対応しないと難しいご利用者が多く入居されている為
- 2、個別対応の必要なご利用者が多いので基準通りの職員配置では職員の負担が過重になってしまい、身体的精神的な疲労などから職員の離職を防止する為
- 3、職員がまとまった休みをとり易くするため、また資格取得の為に休んだり、研修に外部にでもホームでの日常に影響を与えない為

仮に設備が充実していたとしても、ご利用者ひとり一人に毎日接するのは職員なので、職員各々の自覚と向上心が大事であると考えているが、毎日の介護で疲れ果ててしまえば、ご利用者に対してもよい対応ができなくなってしまうと思いますので、自分も幸せでないと人を幸せにするのは難しいと思うので、休みの時は十分に休める様に、また毎日の仕事も過重にならないように上記の様に職員は基準をかなり上回った数配置している。